

実業家・政治家

宮内治三郎じさぶろう生誕の地



宮内治三郎

宮内治三郎は、安政四年（1854年）十月二十六日、伊予郡灘町の酒造家

宮内才右衛門保孝の二男として、現在は橋医院が所在する場所に生まれました。

兄が夭折したため、明治四年（1871年）七月に宮内才右衛門家の家督を相続し九代目を継いでいます。

治三郎は、五色浜の住吉神社の造営、私立郡中銀行の設立、伊予汽船会社の前身であった長浜の肱川汽船の設立、彩浜館の建設、郡中巷衢創業原誌碑ぐんちゅうちやうくわんげんしひの建立、南予鉄道の開設など地域近代化のためのさまざまな事業に積極的に参画しました。

また 若くして自由民権運動に投じ、町議会議員、郡議会議員、県議会議員、衆議院議員を歴任し、郡中の明治期に地域の発展に尽くしました。

明治三十九年（1906年）二月十三日、四八才の若さで亡くなりました。

地域発展のために、惜しみても余りある人であったといわれています。

墓は栄養寺にあります。

平成二九年四月二日に開催された郡中二百年祭記念式典において、郡中の明治期に地域の発展に尽くした功績により、宮内治三郎に郡中名誉町民賞が贈呈されました。